



特集

新型コロナウイルス感染症拡大防止で地域でおこっていること 7

寄稿

「コロナ禍において、学校が果たした
子どもの居場所・食支援」

学校

広がるパントリーは
伴走支援のツール地域のお茶の間研究所
さろんどて

早川 仁美

2020

「フードバンクに関わる政策研究会」 第1回
神奈川県教職員組合書記長 島崎 直人さん

コロナ禍で、学校は、教師は、どう考え、対応したか。子ども支援に苦悩した学校現場を聞いた。



島崎直人さん

- 神奈川県教職員組合は
神奈川県の公立小学校・中学校に勤務する・教員・職員の労働団体。
県内には公立小学校851、公立中学校407校があり、私立をあわせて小学生45万人、中学生22万人がいる。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止で3月2日（一部3日）より全国一斉に休校となり、給食、居場所などに急遽対応が必要となった。

学校は目的外使用ができない

学校を目的外の居場所や食支援に活用するためには、学校設置者と国（※1）の許可、すなわち文科省・厚労省・農水省などからの通達が必要。見守り・スクールバス・給食等の人員確保、給食未利用食品（※2）の有効利用も喫緊の課題となった。

※1：建設に国庫補助金が入っている

※2：給食用として納入された食材は保護者負担で購入したのもの

通達に始めてフードバンクが登場

3/13、文科省・厚労省から、ひとり親家庭及び生活困窮世帯に対する学習支援に食支援をセーフティネットとして加える、給食未利用食品の有効活用にフードバンクへの寄付を積極的取組とする、という通達が出て、学校機能の活用が一步進んだ。学習支援と食支援を一体的に行うためには、教育委員会・福祉・農林・環境各部署との情報共有の必要性も記載された。通達に初めてフードバンクが登場したことは画期的だった。

学校をセーフティネットのプラットフォーム機能に

コロナ禍が卒業・学期末の時期に発生したことで現場は混乱。教職員は子どもの生活維持に様々な制約に立ち向かった。学校では多くの子どもたちの「居場所」として機能を担うことになったが、「密になっている」「子どもの声がうるさい」等の苦情が寄せられたこともあった。

地域に学校の情報が届いておらず、理解共感が得られていないことを実感した。学校から地域に対して情報を発信する職員の配置や、子どもを学校を含め地域全体で育てるという意識の向上がますます必要になる。学校と地域をつなぐスクールソーシャルワーカーの配置の充実など、コロナ禍の経験を生かすことが必要だ。



研究会の様子

昨年10月から、始めたフードパントリーの活動。コロナ禍でたくさんの問い合わせや、市からの紹介があり、始めておいてよかったと実感しています。

22号に書いてくださったように、さまざまな背景の方が利用されています。コロナで職を失った方は、食品を申し訳なさそうに、でも、やっとお腹いっぱい食べられると喜んでくださいました。また、ある方は「わーお米だ!」と歓声をあげました。頼る先も無くやっとなら私たちの活動にたどり着いたのだなと思いました。ある若者は、所持金が数百円となりまともに食べていない様子で、お弁当を渡すと初めて笑ってくれました。パントリーで支援するお米はまさに命綱です。

しかし、コロナ感染拡大の収束が見えない中、フードパントリーの需要が高まり、発注しても欲しい量のお米や食品が手に入らなくなりました。だから、いろんな助成金を申請し、足りない分を購入して利用者さんにお渡ししています。

食品をただ渡すのではなく、お話を聞きながら関係機関や制度に繋ぎ、その方が次の仕事を見つけ、生活が再建できるまで、パントリーというささやかな活動を通して伴走しています。



追加情報

■ 取材に行ってきました ■

さろんどては、茅ヶ崎で居場所・子ども食堂を行う。もともと高齢者ケアや保育に携わる人々が参加型で民主的な運営をするアソシエーション。行政・社協の相談窓口やケースワーカーなどから、紹介されたり、直接相談に来た人に予約で食品をお渡しする。困窮世帯15、ひとり親世帯40の55世帯が登録し、1か月に1度、4回に分けてパントリーを開催。

教会のご厚意で、倉庫と仕分け場所を借りることができ、各種の助成金を活用し、冷凍冷蔵庫やクレートを購入。

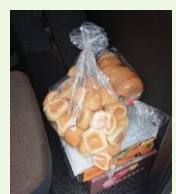
ただ食品を渡すだけではなく、渡しながら聞き取りを行い、地域の団体や制度にもつないでいるが、日々これでいいのだろうか、悩みながらやっているという。



今日は
8人分の
仕分け



教会ご厚意の倉庫



コストコからはパンの提供がある



予告 第2回 フードパントリーという活動 講師 早川仁美さん

お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ info@fb-kanagawa.com

236 - 0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45

発行責任：藤田 誠

TEL 045-349-5803

基本情報 2020年度の累計 (2020/9/30現在)

| | |
|------------------------|-----------------------------|
| 寄贈された食品 106.6トン | 提供した食品 1170回 103.9トン |
| 企業等 213回 94.6トン | 行政・社協 293回 23.7トン |
| フードドライブ 347回 12.0トン | 地域のフードバンク 191回 31.4トン |
| | こども食堂等 465回 31.5トン |
| | 自立支援施設 39回 1.9トン |
| | 福祉・病院関係 182回 15.0トン |
| | 調整 0.4トン |

(2019年度実績 寄贈 97トン・提供 92トン)

合意書締結団体

| | |
|-----------------------|-------|
| 寄贈締結団体 | 123団体 |
| 提供締結団体 | 190団体 |
| 行政・社協 | 49団体 |
| 市民団体 | 141団体 |
| (子ども食堂・居場所・施設・福祉関係含む) | |

賛助会員寄付状況

| | | |
|----------|-------------|--------|
| 団体会員 | 154団体 | 540口 |
| | | 540万円 |
| 個人会員 | 227人 | 1016口 |
| | | 1016千円 |
| 2020年寄付金 | 4,186,298円 | |
| 寄付累計 | 15,830,371円 | |

9月の状況 9/1~9/30 寄贈15.5トン 提供14.1トン

| | |
|----------------------|--------------------------|
| 【寄贈食品】 15.5トン | 【提供食品】 14.1トン |
| 事業者 12.5トン31回 | 行政・社協 1.5トン 24団体 33回 |
| フードドライブ 3トン 412回 | 地域のフードバンク 4.5トン 16団体 31回 |
| 8月は寄贈 6.4トン | こども食堂・居場所 4.7トン 49団体 84回 |
| 提供10.2トン | 施設関係 0.2トン 5団体 8回 |
| | 福祉病院関係 3.2トン 20団体 33回 |

寄贈 メイトー協同乳業からミルクde水素19,200個、コカ・コーラからコーラ・紅茶花伝3,240本、防災ビスケットやアルファ米も。

フードドライブ ユーコープ924kg、生活クラブ535kg、パルシステム神奈川381kg、ヨーカドー622kg、個人495kg、神奈川県赤い羽根共同募金会150kg、横浜銀行、富士フィルム、JA、JP労組、ワークスコレクティブからも寄贈。



- ①ミルクde水素
- ②シールを添付し出荷
- ③県環境農政局
- ④港南区役所
- ⑤自治労県本部 3団体のフードドライブ。

提供 相模原市の学生支援が継続となり771kgを提供。地域のフードバンクでは、〈お福分けの会〉966kg、新規の〈浜っ子南〉408kg「カフェドフクシマ」235kg。こども・地域食堂は、フードパントリー活動団体で増加。〈ちゃっ〉と338g、〈金沢すくすく〉363kg、〈満福うえのまち食堂〉214kg、〈ふれあいつ子三ツ沢〉211kgなどが多い。横浜市は21年3月まで週240の独り親支援を〈母子寡婦福祉会〉に委託し食品は「フードバンクかながわ」から提供1,112kg、無料低額宿泊施設等を運営する〈命を守るネットワーク〉571kg等の利用。

食品ロス削減コースターデザイン募集

募集期間 2020年11月1日~2021年1月31日

日本の「食品ロス」は、年間643万トンも発生しており、これを日本人一人あたりに換算すると、毎日お茶碗一杯分を捨てていることになります。大切な食べ物を残さずに食べきり、食べ残しをしないことで環境にやさしい街をつくりましょう。

- ★一般・中学生・小学生の3部門
- ★入選者にはクオカード進呈
 - 一般 最優秀賞1名1万円、優秀賞2名5000円
 - 中学生 最優秀賞1名5000円、優秀賞2名2000円
 - 小学生 最優秀賞1名5000円、優秀賞2名2000円
- ★優秀賞の3名のデザインでコースター作成
- ★応募資格はフードバンクかながわ加盟団体の組合員、職員、家族など

詳細はHPで



事業推進委員

三枝 みさ子さん

(生活協同組合ユーコープ
組合員参加推進部部长)



毎年8月、生活協同組合ユーコープの全店舗では「夏季のフードドライブ」に取り組み、組合員にも徐々に浸透してきています。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、暮らしへの影響が深刻化する中で、本年は複数の組合員より「コロナ禍で困っている人が増えている、取り組み期間を長くしてほしい」との要望をいただきました。そこで急ぎ、フードドライブのスタートを前倒して7月より2か月間実施することとし、来店した組合員に、家で眠る食品の提供を呼びかけました。その結果、神奈川県内の全79店舗および関連会社などからフードバンクかながわへ寄贈できた食品は、昨年の1.8倍にもなりました。さらにJAさがみ様が取り組まれたフードドライブ品をユーコープ湘南台がお預かりし、フードバンクかながわへ届けるといふ、新たなつながりも生まれました。今後も地域の方々や諸団体の皆さんと手を取りながら、くらしを支え合う活動をともに進めていきたいと思います。



新倉庫オープン

ヨーカドー18店舗で イトヨカドー フードドライブボックス常設

大手スーパーヨーカドーは神奈川県全店と東京の一部店舗でのフードドライブを開始。常設ボックスを設置し、寄付された食品はフードバンクかながわに提供される。

毎週火曜日に横浜青果センターに集められ1か月で1トンを超える勢い。

常設ボックス設置店

相模原店/藤沢店/洋光台店/たまプラーザ店/桂台店/綱島店/若葉台店/上永谷店/伊勢原店/古淵店/鶴見店/南大沢店/能見台店/横浜別所店/湘南台店/拜島店/東大和店/アリオ橋本店



ヨーカドーのほかに、ユーコープ、自治体でも食品寄付がいつでもできる常設ボックスを設置しています。フードバンクホームページで紹介しています。

上:別所店 下:寄贈食品